

行動する

東海地震に関する情報

■警戒宣言が発令されたら地震に備えた行動をとろう！

東海地震は、地震が発生する前に地殻変動ひずみ計に前兆現象が観測された場合、予知の可能性がある唯一の地震です。ただし、前兆すべりが観測されずに突然地震が発生することもあります。

東海地震発生時に東南海・南海地震が同時に発生することもあるので、東海地震情報を注意し、警戒宣言が発令されたら地震に備えた行動をとりましょう。

警戒宣言とは 気象庁の観測データに、東海地震の前ぶれとみられる異常現象がみられ、2~3日のうち（または数時間以内）に東海地震が発生する恐れがあると判断された場合に、内閣総理大臣が地震防災対策強化地域に対して発令されるものです。

警戒宣言が発令されると、鉄道や高速道路などの交通が規制されるほか、危険地域の住民は避難していただくなど、経済活動や社会活動に大幅な制約が加わることになります。

東海地震防災対策強化地域 10市町

桑名市、木曽岬町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、大紀町、尾鷲市、紀北町、熊野市

（平成21年4月1日現在）



◆情報体制

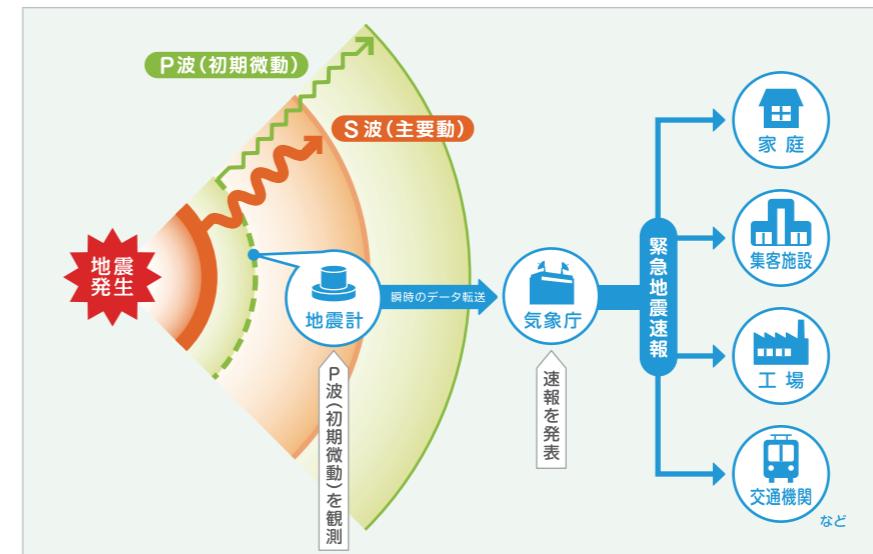


■警戒宣言が発令されたら、東海地震防災対策強化地域では…

電気・水道・ガス	供給は継続されます。
電話	重要通信の確保のため、一般回線の利用が制限されることがあります。
鉄道・バス	原則、強化地域内での運行を中止します。
旅客船舶	津波の影響のある強化地域周辺海域で運行を中止します。
道路	強化地域からの流出は制限されませんが、地域内への流入や走行は、避難路、緊急輸送道路を確保するため極力抑制されます。
百貨店・スーパー・コンビニ	原則、営業を停止します。耐震性の確保される店舗は、店舗の判断により営業を継続します。
金融機関	窓口業務は停止され、一部のATMは払い戻しが継続されます。
学校	東海地震の注意情報発表時の段階から、あらかじめ決められた方法で児童、生徒を帰宅させます。
病院	外来診療は中止されます。なお、安全性が確保されている場合は診療が継続されます。

緊急地震速報のしくみ

緊急地震速報は地震の発生直後に、震源に近い地震計でとられた観測データを解析して震源や地震の規模（マグニチュード）を直ちに推定し、これに基づいて各地での主要動の到達時刻や震度を予測し、可能な限り素早く知らせる地震動の予報・警報です。



※震源に近い地域では、緊急地震速報が強い揺れに間に合いません。

※緊急地震速報（警報）を早いタイミングで発表できない場合があります。

- 震源近くで地震波（P波、初期微動）をキャッチし、震源や規模、想定される揺れの強さ（震度）等を自動計算

- 地震による強い揺れ（S波、主要動）が始まる前に素早くお知らせ

- 震度5弱以上を予測した場合に、緊急地震速報（警報）を発表

- 時間経過とともに精度がよくなる緊急地震速報（予報）を繰り返し発表

※予測した震度には±1程度の誤差を伴います。

（気象庁資料による）

緊急地震速報利用の心得

ふだんから家屋の耐震化や家具の固定など、地震に備えましょう。

まわりの人にも声をかけながら

地震の揺れを感じたら…
(緊急地震速報がなくても)

あわてず、
まず身の安全を!!

緊急地震速報を見聞きしたら…
(地震の揺れを感じなくても)

緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れがくるまでの時間は数秒から数十秒しかありません。

家庭では

- 頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する。
- あわてて外へ飛び出さない。
- むりに火を消そうとしない。



自動車運転中は

- あわててスピードをおとさない。
- ハザードランプを点灯しまわりの車に注意をうながす。
- 急ブレーキはかけず、ゆるやかに速度をとどめよう。



人が大勢いる施設では

- 係員の指示にしたがう。
- あわてて出口に走り出さない。



屋外（街）では

- ブロック塀の倒壊に注意。
- 看板や割れたガラスの落下に注意。



鉄道・バスでは

- つり革、手すりにしっかりとつかまる。



エレベーターでは

- 最寄りの階に停止させすぐおりる。



周囲の状況により具体的な行動は異なります。日頃からいざというときの行動を考えておきましょう。

なまず博士からの緊急指令 地震から身を守ろう!